

#編集室に届いた執筆者関連本



ほの暗い永久から出でて 生と死を巡る対話

上橋菜穂子、津田篤太郎＝著

本体 1,300 円＋税／四六判・192 頁／文藝春秋／2017

“児童文学のノーベル賞”とも言われる国際アンデルセン賞作家賞を受賞した上橋菜穂子さんと、津田篤太郎先生（聖路加国際病院リウマチ膠原病センター）の往復書簡本。文化人類学者の顔ももつ“ファンタジー作家”と“総合診療医ドクターG”は、いったい何を語り合ったのか？ 謎の伝染病とその原因究明を主題とした上橋さんの『鹿の王』（角川書店、2014）は、日本医療小説大賞も受賞している。

上橋さんの母親の癌をきっかけに出会った2人の話は、身体のシステム、性（セックス）、科学・非科学、自然災害、宗教、音楽、絵画、AI、直感、漫画から古典、最新の論文にいたるまで、縦横無尽に広がりゆく——。『精霊の守り人』から医学の未来まで、知的好奇心を刺激する圧倒的な面白さ！